



野鳥の 不思議解明 最前線 #70

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2011

ヒナに給餌するオオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*。日本では、ヘビの抜け殻を使った巣は見かけないらしい。
撮影●内田博

皮製品が好きな鳥たち

～蛇皮を巣材に使うオオヨシキリの雌はセレブ?～

夏にはちょっと暑苦しいけど、ぼくは革製品がけっこう好きです。シンプルな牛などのヌメ革がいいですね。かなり長期間使っているカードケースなんかは、手油で艶光して、かなりいい感じです。こうしたシンプルな革製品と双壁をなすのが、セレブで派手な感じの爬虫類革です。ぼくは好みではないのですが、この爬虫類革、鳥にも愛用しているのがあるという論文がIBISの最新号に載っていたので、ご紹介します。

爬虫類革を愛用しているのはスロバキアのオオヨシキリ。巣材にヘビの抜け殻を使うそうです。ところでオオヨシキリはヘビ皮を好んで使っているのでしょうか？それともそんな感じの素材なら何でも良いのでしょうか？この研究を行なったTrnkaさんは、造巢中のオオヨシキリの巣の前にヘビの抜け殻とそれと似た感じのリボン置いて、オオヨシキリの反応をみました。すると多くのオオヨシキリがヘビの皮を巣材に使ったのに対して、リボンを使ったのはわずかでした。オオヨシキリはヘビの皮を好むようです。

では、なぜヘビの皮を巣材にするのでしょうか？オナガカエデチョウ *Estrilda astrild* の研究では、カエデチョウは肉食獣の糞を巣材に使い、おそらくその臭いが捕食者を遠ざけ（くさいからではなく、臭いを警戒してです）、卵やヒナの捕食の危険が減ることが明らかにされています（Schuetz 2005）。ヘビの抜け殻にも同じような効果があるのでしょうか？

ヘビの抜け殻を使った模擬巣と使わなかった模擬

巣の捕食率を比較することによりこのことを確かめてみると、その両者には違いはなく、ヘビの抜け殻に捕食を減らす効果は見出せませんでした。ただ模擬巣を使った実験は、目視で巣を探す鳥などの捕食者には有効だけど、臭いで探す哺乳類の捕食者にはあまり有効でないといわれています。実際、この実験で確認するこのできた捕食者もほとんどは鳥だったので、鳥以外の捕食者にヘビ皮が有効な可能性も残っています。

以上のように「捕食回避仮説」はまだ否定されたわけではありませんが、それ以外に、ヘビ皮を使う理由にはどのようなことが考えられるでしょうか？いくつかの研究から、巣材の量が個体の能力を示す指標になっていることが、示唆されています（Soler et al. 1998, Tomas et al. 2006）。オオヨシキリは一夫多妻の鳥で、雌にとって雄の給餌を受けられるかどうかが繁殖成績を左右する大きな要因になります。雌が自分の質を雄にアピールすることは重要そうです。Trnkaさんは、めったにないヘビ皮を見つけて巣材にできることが、雌が自分の質をアピールする信号になっているのではないかと考えています。ヘビ革を持っているオオヨシキリはセレブ？今後の研究の発展に期待したいと思います。

紹介した論文

Trnka, D. & Prokop, P. (2011) The use and function of snake skins in the nests of Great Reed Warblers *Acrocephalus arundinaceus*. Ibis 153: 627-630.